

	課題分析	授業改善策
国語	〈1年〉【知】観点別の学習状況や定期考査の結果より基礎的な漢字の読み書きの定着率が低いことがわかる。 〈2年〉【知】定期考査の結果から、語句、漢字、文法といった知識技能の点数が低い傾向がわかる。 〈3年〉【思】初めから暗記しようとする傾向があり、文章の解釈・熟考・表現する力が課題。	〈1年〉【知】小テストの継続により家庭学習を習慣化させるとともに、授業の進行とともに表現活動を通じて習った漢字を「使う」場面を意識的に設けていく。 〈2年〉【知】小テストの頻度を増やすことで、家庭での学習機会を増やし、基本的な知識の定着を図っていく。 〈3年〉【思】構造と内容の把握・精査・解釈・考えの形成・共有を小グループの活動を取り入れながら段階的に指導していく。
社会	〈1年〉【思】観点別の学習状況や定期考査より、思考・判断・表現力が全体的に他の観点より低い。 〈2年〉【思】記述問題において、知識をもとに資料の特徴を考えることに課題がある。 〈3年〉【思】観点別の学習状況や定期考査より、思考・判断・表現力が全体的に他の観点より低い。	〈1年〉【思】表現力を磨く授業を行い、意見発表等を通し、物事を多面的多角的に見る視点を身に付けさせる。 〈2年〉【思】資料から特徴を読み取る活動を多く取り入れ、知識活用への意識を高める。 〈3年〉【思】授業内で思考・判断・表現力を磨けるような演習問題に触れる回数を増やす。
数学	〈1年〉【思】問題の抽象度が上がると、対応に時間を要する。 〈2年〉【思】文章題に対する苦手意識が強く数量関係を整理して、粘り強く考えることに課題がある。 〈3年〉【思】特に思考・判断・表現の観点で学力差が大きい。	〈1年〉【思】具体物から出発し、文字等へ移行するプロセスを意識した授業展開とする。 〈2年〉【思】表や図を利用して思考プロセスを細分化し、一問一問にじっくりと向き合う。 〈3年〉【思】授業内で、努力を要する生徒への個別指導を厚くすると同時に、生徒同士の教え合いも促進する。
理科	〈1年〉【思】実験結果を基に物質の特徴を整理し、判断することは概ねできている。一方で、複数の情報を関連付け、根拠を明確にして自分の考えを論理的に説明・表現する力には個人差が見られる。 〈2年〉【思】定期考査の結果や、授業プリントから、考察を書くことを苦手としている生徒が多いことがわかる。 〈3年〉【思】既習の知識を活用して結果を分析したり、情報を関連付け根拠を明確にして説明したりする力が他の観点よりも低い。	〈1年〉【思】実験の目的や課題を正しく理解させ、結果のどの部分を根拠とすれば論理的に説明できるのかを考えさせる。また、見通しをもって観察・実験に取り組めるよう、予想を立てる活動や実験手順の提示を工夫する。提出された考察には個別に助言し、結果と考察のつながりを意識して表現を改善できるようにする。 〈2年〉【思】授業の中で、考察を書く機会をつくり、力をつけられるようにする。 〈3年〉【思】授業の中で考察の表現内容を確認したり、問題演習および解説に取り組ませたりする機会を増やす。
音楽	＜1年＞【知】 ○基礎的な音楽の力（読譜力、発声の仕方、音楽文化についての知識等）の定着度に個人差がある。 ＜2年＞【主】 ○昨年度より授業に取り組む態度がよくなった。だが、発言やリフレクションによる変化を見ると、受身となっている面が見られるため、主体的に音楽活動に取り組もうとする意識を高める。 ＜3年＞【思】 ○自分が音楽を味わい、感じたことを、音楽を形作	＜1年＞【知】 ○基礎・基本の定着を目指し、反復学習、スモールステップの学習を多く取り入れる。 ＜2年＞【主】 ○少人数グループで生徒主体に活動し、お互いに意見を認め合う場面を、授業の中に取り入れる。 ○今日何を学び、何をもっと深めたいのか、次につながる授業になるよう、授業のまとめ方を工夫する。 ＜3年＞【思】 ○音楽を形作っている要素を常に意識できるよう、揭示

	る要素と結び付けて捉える力を高め、表現や鑑賞の活動をより深いものにしていきたい。また、リフレクションによる変化がもっと活発になるようにしていきたい。	物やワークシートを用いて授業を行う。 ○音楽から感じたことを深めるために、感じたことの生徒同士の交流の場面を、いろいろな方法（発表、プリント交換、少人数での話し合い等）で設定する。
美術	〈1年〉【知】道具の使い方等について正しく理解して活用できている生徒が少ない。 〈2年〉【主】アイデアや構想につまずく生徒が多く、作業に進めないことがあった。 〈3年〉【思】作品の表現が幼く、深められていない。	〈1年〉【知】丁寧な説明を繰り返すことで、正しい知識や技術を身に付けさせる。 〈2年〉【主】やや難易度を下げて単純な作業を増やすことで、作業する時間を増やしていく。 〈3年〉【思】絵の具での制作の段階で、具体的な技法や表現の工夫の仕方を考えさせるようにする。
保健体育	〈1年〉【主】運動経験や発達段階の差が大きく、要配慮生徒が各学級多数在籍する。苦手意識や諦めが成長を阻害している生徒も多くいる。 〈2年〉【主】運動が得意な生徒と苦手な生徒の二極化が見られ、運動への意欲や技能の習得に差が生じている。 〈3年〉【主】得意な生徒と苦手な生徒の二極化や、受験期の体力低下により、授業に対するモチベーションに大きな開きがある。	〈1年〉【主】コーディネーションや基礎体力の向上、課題の自己調整能力、グループワークによる課題解決学習等に取り組み、できる楽しさを味あわせる。 〈2年〉【主】スモールステップで達成感を積み重ねるとともに、生徒同士の教え合いや協働的な活動を取り入れ、意欲の向上を図る。 〈3年〉【主】生徒が自分の体力や課題に合わせて最適なコースを選択し、自ら立てた目標に向かって粘り強く練習や試合に取り組む環境を設定していく。
技術・家庭	〈1年〉【知】基本的な技能・知識の定着が不十分。作業手順を理解せずに取り組む生徒が多い。 〈2年〉【思】課題解決のために複数の方法を比較・検討することが苦手な生徒が多い。 〈3年〉【主】学んだ知識・技能を実生活や社会課題へ結び付ける意識が弱い。	〈1年〉【知】ICTを活用した手順動画の提示や、実演→個別練習の流れを徹底し、振り返りシートを活用しながら振り返る時間をつくる。 〈2年〉【思】グループでアイデア交流を行う時間を増やし、多角的な意見の検討を行う。 〈3年〉【主】探究的な課題設定を行い、AIやIoT、SDGsなど社会との関連を扱う。
外国語	〈1年〉【知】英単語や英文を書くことに課題があり、語順や動詞の変化など基本的な文法事項の理解も十分ではない。 〈2年〉【知】基本的な単語や文法が定着していないので、書きたいことや伝えたいことを正しく表現できていない生徒の割合が高い。 〈3年〉【思】自分が表現したい内容に対して、既習の文法を適切に活用することを苦手とする生徒が多い。	〈1年〉【知】英単語や基本文の書く活動を繰り返し行い、語順や動詞の変化などの基礎的な文法事項を丁寧に指導する。また、ワークやタブレットを活用した反復学習や小テストを通して、確かな基礎学力の定着を図る。 〈2年〉【知】ワークやタブレットを活用したスパイラル学習(家庭学習・自主学習)を勧めるとともに、定期的な単語・文法に関する小テストを実施し、学習に対する意識を高めさせる。 〈3年〉【思】場面設定を与え、どのような表現方法があるか、自分で考える時間と周囲と相談・共有する時間を確保し、既習文法を正しく用いる練習をする。